# わが制壓下の印度洋

神速果敢な皇軍の作戦は向ふところ敵なく、濠洲主要地に痛撃を加へる一方、續いて一隊が合言葉としてゐた〝次はインドだ〟を實現させ、去る廿三日にはベンガル灣の戦略要地アンダマン諸島のポート・ブレヤを占領し、續いて南北アンダマン諸島に戦果を擴大中である、皇軍の巧妙な作戦ぶりは英國人に印度洋のもつ戦略上、經濟上の重要性を檢討する暇も與へてくれなかつた程迅速すぎだつた――以て近く我が制壓下の前に全貌を曝け出すであらう印度洋の片鱗を描いて見る

## 西歐諸國蹂躙の歴史

### 寶庫の海 本然の日近し

**印度洋とは**

一四九八年ポルトガル人ベスコダ・ガマの喜望峰發見により全世界の貿易の眼目は東方に移り、大西洋に臨む諸國――ポルトガル、フランス、スペイン、オランダ、英國等の間に東洋の覇權爭奪の戰爭が激烈になつた、印度洋沿岸諸國及び洋上の島嶼も亦海洋を支配する國に領有され、支配されるところとなつたのである、二大洋中太平洋、大西洋の波が荒れに荒れてゐる時、印度洋の波もまた荒れんとしてゐる、スエズ運河の開通によつて歐亞航路が短縮すると共に益々烈しくなつた搾取に流し、その支配から起ち上らんとしてゐるのである、印度洋は、東はマレー列島及びオーストラリヤ西岸から西はアフリカ南岸まで、北はアジヤ大陸に、南は南極大陸に至る大洋で、その面積は七千四百一・九六〇平方粁、太平洋の五分の二に當り、大西洋よりは稍小、北部にはアラビヤ、印度、印度支那の三大半島が突出してアラビヤ海、ベンガル灣の兩灣に分つてゐる、また紅海、ペルシャ灣の兩附屬海は狹長な灣入となつて西北に進出してゐる、アフリカ及びオーストラリヤの二大陸側には著るしい灣入がない

印度洋中の島嶼としては西部のマダガスカル島が最大で、アフリカ大陸との間にモザンビク海峽をはさむ、その他は何れも小島で、東部にはアンダマン諸島、ニコバル諸島、印度半島附近にセイロン島、ラッカヂブ諸島、マルヂブ諸島があり、マダガスカル島附近にはマウリトス諸島、レユニオン島、コモロ諸島、セーシェル諸島等が點在してゐる

流入する主要な河川としてはアジヤ大陸からはサルウイン河、イラワジ河、ブラマプトラ河、ガンジス河、ゴダビイリー河、キストナ河、ネルブッダ河、インダス河、シャト・エル・アラブ河、アフリカ大陸からザンベジ河が擧げられるが、オーストラリヤ大陸から流入するものとしては注目すべき河川はない

**雄大な自然條件**

印度洋は全海洋の三分の二は四千米以上の深海でスマトラ沖のメンダウエー海溝の最深處は五六六四米に達す、表面水温は赤道附近では廿八度であるが南方に行くに從ひ低下する、鹽分は赤道以南は降雨大量のため三四%に過ぎないが、南緯二〇度附近では三六%それから南方は再び低下して三四%である、附屬海たる紅海、ペルシャ灣は降雨少く而も蒸發盛んなため四〇%に達してゐる

海流としては南緯十度附近を西に向ひ強い南赤道海流が流れ、北半球では季節風に支配されて冬は西南に、夏は東北に向ふ強い吹送流を生じ、南半球では前記の南赤道海流とこれと反對に南緯五〇度附近を西から東に向ふ西風吹送流が大環流をなしてゐる、その中南赤道海流がアフリカ大陸の東岸に南下する海流をアグルハス海流、また西風吹送流の一部がオーストラリヤの西岸に向ひ北上するのを西オーストラリヤ海流と云ふ

これらの海流は十六世紀以後歐洲諸國の商船に利用されること多く、現今でもヨーロッパとオーストラリヤ航路には利用されてゐる、また赤道直下附近は夏は風波強く航海者が悩まされる所である

**日英商船と印度洋**

英國はその偉大な植民地と强力な海軍力を利用して印度、南洋方面に於ける獨占的地位を築き壓倒的勢力に依存して高率運賃を收得してゐた、日印―波斯間の航路は英國系B・I社の獨占航路で、外國船の侵入を絶對に許さなかつたのであるが、昭和八年山下汽船が配船形式で波斯灣に配船を開始し、一般貨物の荷積を低率運賃で開始したことに依つて初めてこの航路も日本側の進出を見たのである、これは久しく惰眠を貪つてゐた英國海運の一大脅威であつた、次いで川崎汽船の進出があり、三井船舶も亦印度マドラス灣、孟加拉灣、波斯灣へと進出し、印度、波斯方面に於ける我國商船の航海權は英國船を脅威して壓倒的優勢を示すに至つたのである、即ち輸出印度航路に於ける日、英兩國の定期船配船隻數は、昭和十二年に於ては日本船四八隻二十九萬五千噸餘で總數の七割三分六厘を占めてゐたのに對し英國船は一七隻、十萬五千噸餘で僅に二割六分四厘であつた、既に我船舶は英國船の約三倍の勢力に達してゐたのである

**アンダマン諸島**

わが占領下のアンダマン諸島はベンガル灣の南東部に位し、大、小アンダマン諸島より成る、大アンダマン諸島は北、中、南の三アンダマン島を主とし二百の小島が附屬し、面積は八一四〇平方粁である、土地は一般に高く、北アンダマン島のサドル峰は六八五米に達す、氣候は熱帶印度の季節風と赤道南洋の影響により高温、多濕で年平均温度三〇・六度、四、五月の最高温度は三七・二度以上である、人口は一九四〇年において二萬一千餘で、アンダマンの原住民としては身長矮小(平均身長一・四八五米)であるが、猛悍なジアラワ族、オシゲ族等が住んでゐる、然しその數は少く五百人に充たない、十八世紀に英國が南北アンダマン島に植民し一八五八年には印度政廳の管下に編入し囚人の流刑地に用ひたのであるが現在もニコバル諸島と共に印度政府に直轄させ、知事を置いて統治してゐる

氣候が高温多濕のため、椰子、護謨等の成長は極めて旺盛であり、その他マニラ麻、シサル麻等の栽培に適してゐる、開墾面積は六六〇〇エーカー、穀物としては米、豆、玉蜀黍、甘蔗、煙草等、その他に椰子、茶、ゴム、大麻等が主要産物で、輸出品としては木材、珈琲、ココア、護謨、海鼠、高瀬貝等がある

アンダマン列島はロス島、その他諸島に深い灣入部多く天然の良港を形成してゐる所が多いが、特に南アンダマン島のブライヤ港はアンダマン諸島中最大の、また最も重要な港であつて、主要貿易はこの港で行はれてゐる、またアンダマン諸島及びニコバル諸島の統治に任ずる知事の駐在地でもある

アラビヤ海　ベンガル灣　インド　ビルマ　タイ　佛印　印度洋　マドラス　コロンボ　スマトラ

**戰く沿岸主要都市** 上からカルカッタ、ボンベー、コロンボ(セイロン島)

## 印度を握る鍵

### 洋上の主な島嶼素描

**ニコバル諸島**

マレー半島の東ベンガル灣中の諸島で、一八六九年以來英國が領有するところとなり、現在印度政府に直屬し、アンダマン知事の監督下にある副知事に依つて支配されてゐる、森林に蔽はれた二一の島嶼から成りその一部は珊瑚島で總面積は一六四五方キロであるが諸島中九島は無人島、その他の島には原住民及び英國領有以來の印度流刑人の子孫が住み、人口は約一萬である、輸出品としてはコ、椰子が主でその他に海甲、藤蔓等がある

**セイロン島**

セイロン島は印度の南東に位しその總面積は六五、六一〇平方キロ、南半には山地多く、北半は平地で、熱帶的植物に蔽はれてゐる

北西部のマナール島と印度本土の南東にあるラメジワラ島とは淺い砂洲に繋がれ、マケールから印度本土まで鐵道が通じ南印度鐵道と連絡して居り、地理的には印度と關係が深くなつてゐる

人口は五三〇萬餘で、この內四分の三はシンハリース人で次いでタミール人が多くその他にムア人、セイロン人及び原始人的特性を多分に保有するヴエダ人種が居りまたオランダ人、ポルトガル人の植民者と土人の混血人等がある

セイロン島は十五世紀の終り、バスコダ・ガマがアフリカ南端を廻つて印度に達して歐洲の航路が開かれて以來、十六世紀から今日までにポルトガル、オランダ、英國の勢力下に雌伏してゐる、現在は英國直轄植民地の一で、印度とは地理的には密接であるが、政治的には直接關係はない、總督の下に立法、行政の二部があつて統治されてゐる

住民はその四分の三はシンハリース人で次いでカミル人が多く他にムア人、セイロン人、及び原始人的特性を多分に保有するベエダ人、またはオランダ、ポルトガルの植民者と土人との混血種ベーガー等である、宗教は佛教徒が多くその他ヒンヅー教、回教、キリスト教が信仰されてゐる

セイロン島全土の中、開墾されてゐるのはその約四分の一で殘りの四分の三は叢と森林である、本島の經濟は農耕的で推移して居り、主要産物としては茶、ゴム、椰子、米その他の穀物、肉桂、チョコレート等がある、これらは何れも重要輸出品として英、米、カナダ、オーストラリヤ等に向け輸出されてゐる、茶は耕作面積約四〇萬エーカーでその所有は殆どヨーロッパ人の手に屬し、南印度からつれてきた土人が勞働に從事してゐる、ゴム栽培の實權は殊に目覺しく西南地方、中部地方には最も盛んで、椰子は栽培に適してゐるが輸出品としては餘り重要でない、鑛産物として主要なものは黑鉛で、英本土、北米等に輸出され、またマタラ地方からは寶石を産す、輸入品としては織物、米、燃料、砂糖等であつて織物は英國から輸入されてゐる

セイロン島の都市中首都コロンボは世界的海港として實に重要な位置を占めてゐる、即ち南は南アフリカ、オーストラリヤへ、東は極東、ビルマへ、西はスエズを經て歐洲各國へ通じ、また印度大陸西岸間の交通の要路に位置してゐるのである、然しコロンボは天然の良港ではなく、一八七五年から一九一二年まで四〇年に近い歳月と一六〇萬ポンドの巨費を投じて四哩の防波堤を築き、モンスーン期の名物の烈しい風浪をも完全に防ぎ得る様にしたものであつて港內の面積は六六〇エーカーである、市街の港に近いフォートは最も歐化してゐてホテル、官廳、銀行、會社、商店等の大建築が櫛比してゐるが、土人町は異臭と騒音とけばけばしい色彩と雜踏に充ちてゐる

ツリンコマリは東部州の首都で天然の良港をなし、イギリス、インド艦隊の根據地であつたが現在は海軍兵器廠が殘つてゐるだけである、ヌワラエリヤは本島第一の避暑地で避暑客が群集する、この他に西紀前一世紀の初頭ワラガンバーフ王が佛教を興隆させた所として有名なマターレ、或はオランダ人の遺した保壘を存する第二の都市ジャフナ等がある

**マダガスカル島**

マダガスカル島はアフリカ大陸の東海岸に位しモザンビク海峽を挾んで隔たるフランス領の島で總面積は五八萬方キロ餘、島の長軸は北々東から南々西に向ひ、長さは島の三倍である、北方に位するコモロ島及びマヨッテ諸島は行政上本島に編入してゐる、マダガスカル島の北部には多くの消火山があつて溶岩が湧き出し、また脊梁山脈の主山嶺をなす火山性のアンカラトラ山脈の最高峰ツアラタナナ山は二八六一米に達す、海岸線は北部には出入が多いが、その他は單調で、河川としてはモザンビク海峽に流入するマンゴア河、ベチボカ河以外には長流がない

氣候は沿岸的熱帶低地は高温多濕(七月最低温二七、二度、三月最高三一、六度)で不健康であるが、高地は一般に冷涼(七月最低温一二、六度、三月最高温一九、五度)である、降雨は東側に多いが、大部分は南東貿易風の影響に依り一〇〇〇―二三〇〇粍で、南西部は降雨量四〇〇粍に過ぎない、東側は降雨量が少く、乾季が長くため荊棘類、仙人掌等の草地であり一般に貧弱な森林である、河岸には狹い森林地帶が見られ、全般的に土地は痩せ、熱帶植物の耕作及び栽培は海岸低地の沖積土上に限られてゐる、米、甘蔗、ココア、椰子等を栽培してゐる、高原は牧畜に利用されてゐる

**マダガスカルの文化、産業**

總人口はマヨッタ島、コモロ島を含めて三六二萬餘で、この內フランス人は約二萬、殘りはアフリカ人、アジヤ人及びヨーロッパ人である、土人は東側に住むマダガスカル族と西側のサカラブ族でマダガスカル族はホブア人、ベチレオ人、ベチミサラカ人等である、本島の文化はフランス政府の指導を受けてゐるが現在尚極めて幼稚の段階で、宗教は概して無宗教、ホブア族の一部にはフランスカトリック教に歸依するものもあり、また一部種族中には回教を奉ずるものもある

本島における主要産業は農業であるが、フランス人經營の一部の大農場を除けば極めて原始的な土人耕作によつてゐたが、前大戰後軍事上の必要に基く政府の獎勵と指導により急速に進歩してきたのである、その主要なるものは米、マニオック、バニラ、丁字、落花生、ゴム等である

マダガスカル島の首都タナナリブオ市は高原にあるので氣候温和、衛生的に富む避暑地である、農産及び輸出入は佛人によつて支配されてゐる、人口は約七萬、その他マジュンガ市、ディエゴ、スワレス港、タマタブ港、アテイラブ等人口一萬五千程度の小都市がある

## 愛の赤道【48】

竹田敏彦作　都竹伸一（畫）

消えた娘（六）

商業登記公告